

福島に暮らす 大内秀一さん からの聞き取り(過去)

22 大内秀一さん2(つづき)

故郷をなんとかしなくちゃな
強くなりましたね。

う40年毎年、田んぼに、夜中
を作っていますが、ここで
コロナの影響で、スケートに
なく田んぼの条件は良いし、
たらね、こんな寒い所で、
れないことかもしれないけど、
す。

り返ったってしょうがない。
木屋を作りたいと思っています。
ありません。だから、それを
きたいと思っていますよ。



山木屋にうまれてよかった、
ふるさとをもう一度つくって
みせる
そう思える



「東日本大震災/福島ばいばい」2022大内秀一さん3(つづき)

Q5, 震災の教訓

誰にでも起こりうることだと思って、常日頃から心の備えをすること
だと思えますね。うちは貴重品は金庫に全部入れて、一番大事な
スーツは、簡単に持ち出せるように一箇所に置いてますよ。昔も、
福島に大きな津波が来たんですよ。だけど、東京電力は、1000年
も前のことだからって、それを笑ってね、見過ごしたんですよね。
そしたら、それ以上の大きな津波が来ちゃったんですね。だから、
「気持ちの備え」も「物の備え」も、どちらもしなくちゃならない。

Q6, 風評被害の現状

山木屋ではほとんどないですね。でも、原発汚染水が海に放出され
るとまた、漁業者は風評被害にさらされて困っちゃうでしょうね。

Q7, わたしたちへのメッセージ

毎年、高橋和ちゃん(立命館大4年)はじめ、盛進の卒業生たちが
山木屋に来てくれます。すごくうれしいですね。「忘れていません」
ってことですから。人を思いやる気持ち。これが何より大事ですね。



2011年3月11日東日本大震災
忘れなさい!
寄り添おう!
私たちが